

平成19年度 関東高等学校女子バスケットボール大会

平成19年6月10日(日)

【女子】準決勝 富士北麓公園体育館 Bコート 第2試合

昭和学院(千葉)	86	$\left. \begin{array}{l} 20 - 26 \\ 17 - 23 \\ 15 - 26 \\ 34 - 21 \\ - \end{array} \right\} 96$	実践学園(東京)
----------	----	---	----------

昭和学院(千葉) コーチ 鈴木 親 光

番号	氏 名	得 点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト	スティール	ブロック	ターン
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4*	久野 絢子	8	0	2	2	6	4	5	1	0	0	0	6	0	0	2
5*	小林 礼奈	6	2	5	0	3	0	0	1	2	1	3	3	0	0	1
6*	渋谷 彩	6	0	0	3	6	0	0	4	2	2	4	2	1	0	2
7	菅田 有子	3	1	2	0	2	0	0	3	3	3	6	1	0	0	0
8*	元山 夏菜	25	2	5	7	16	5	5	5	0	7	7	0	4	6	4
9*	北館 美保	15	1	3	6	8	0	0	0	0	3	3	0	3	0	1
10	大河原 晶子															
11	斉藤 玲奈															
12	松本 貴和レシエル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	望月 陽子															
14	長尾 彩美	13	0	1	6	8	1	2	4	3	2	5	3	1	0	2
15	森戸 理紗															
16	鈴木 菜里菜															
17	眞茅 那衣子	10	2	3	2	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1
18	石橋 早織															
チーム										2	1	3				
チーム		86	8	21	26	51	10	12	18	13	19	32	16	9	6	13

*:スターティングメンバー

確率 38.1% 51.0% 83.3%

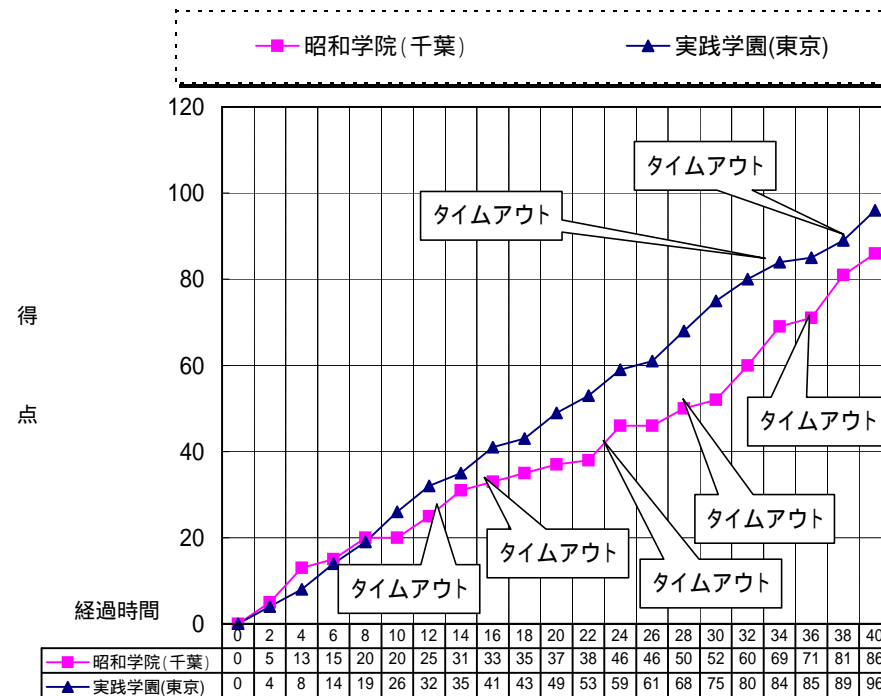
実践学園(東京) コーチ 村松 啓 三

番号	氏 名	得 点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト	スティール	ブロック	ターン
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4	清水 麗咲美															
5	安齋 琴葉															
6*	吉松 祥子	20	0	1	8	16	4	6	0	4	3	7	4	1	0	3
7*	水田 麗	12	0	0	5	9	2	4	2	2	1	3	7	0	0	2
8*	牧野 千穂	37	0	0	17	27	3	5	3	2	4	6	2	1	1	4
9	柿沼 菜保子	2	0	1	1	2	0	0	1	0	2	2	0	0	1	1
10	篠崎 陸															
11*	赤羽 絵美	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0
12	山崎 華子															
13	北島 瑛利子	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
14	多々良 美紀															
15	浦野 紗恵梨															
16	斎藤 愛佑美	6	0	1	3	6	0	0	3	2	3	5	0	1	0	0
17*	山本 貴里	13	1	3	5	9	0	0	2	4	7	11	4	0	0	1
18	本橋 友香	4	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
チーム										3	5	8				2
チーム		96	1	6	42	73	9	15	11	17	26	43	20	3	3	13

*:スターティングメンバー

確率 16.7% 57.5% 60.0%

2分毎による得点の推移



戦評

1Q、両チームともハーフコートマンツースタート。実践はキャプテンでエースの清水を怪我で欠く苦しい布陣で臨む。立ち上がり実践は、牧野、昭和は、元山を中心に攻める。一進一退の攻防が続くが、1Q終了間際、26-20で実践が抜け出す。2Q開始2分、牧野のバスケットカウントで10点差になると、昭和ベンチは流れを断ち切ろうとタイムアウトを要求。その後はお互い一步も譲らず、37-49で前半終了。3Qに入り、実践がバランスよく得点を重ねる一方で、昭和は単調な攻めでシュートが決まらな。DFを2-1-2のオールコートゾーンプレス、戻って1-2-2のゾーンに変え、反撃のきっかけをつかもうとするが、実践は落ち着いてゾーンを攻める。4Q、追い上げたい昭和は、オールコートマンツーマンからのトラップディフェンスで、中尾のシュートが決まり79-89と10点差に詰め寄る。たまたま実践はタイムアウトを要求し、流れを断ち切る。その直後、昭和の攻守の軸である元山がファウルアウトしてしまい、96-86で終落着いて試合運びをした実践が勝利した。

主審 山田 巧 (神奈川)

副審 伊藤裕一 (埼玉)

記入者 三井岳人 (高体連)